

フレームショットキャプチャ 取扱説明書

1. はじめに

このたびは、フレームショットキャプチャをお選びいただき、誠にありがとうございます。本ソフトウェアは、画面キャプチャソフトです。仕事・学業・趣味など、様々なシーンにおける画像データ作成の一助となれば幸いです。

■本ソフトウェアに関する使用条件

- ・本ソフトウェアはフリーソフトです。個人利用／商用利用にかかわらず、無償で使用して構いません。
- ・著作権は開発元の OSA ウェアが保有します。(osa.ware.0030@gmail.com)
- ・再配布は、一次配布先での配布形態・内容を変更せずに行ってください。
- ・本ソフトウェアは、無保証です。
- ・法律に抵触することへの利用は禁止します。
- ・本ソフトウェアの改造、およびリバースエンジニアリングを行わないでください。
- ・本ソフトウェアを用いた結果による状態・損害・不具合等について、一切の責任を負いません。使用者自身の責任で、お使いください。

■動作環境:Windows®10, 対象のフレームワーク:.NET Framework 4

Windows®の正式名称は Microsoft® Windows® Operating System です。

Windows®10 は、米国 Microsoft Corporation の商品名称です。

2. 導入方法

2.1 インストール

インストール不要です。なお、初めての起動時には、実行ファイルと同じフォルダ内に、「_work」という「キャプチャ画像保存用フォルダ」と、その中に「FrameShotCapture.ini」「data.txt」ファイルが自動作成されます。

また、対象のフレームワークは「.NET Framework 4」で作成しています。必要に応じて別途インストールしてください。

2.2 アンインストール

本ソフトウェア実行ファイル、「_work」フォルダ内の「FrameShotCapture.ini」と「data.txt」を削除してください。

また、「_work」フォルダと、「_work」フォルダ内に保存されているキャプチャ画像は、必要に応じて削除してください。

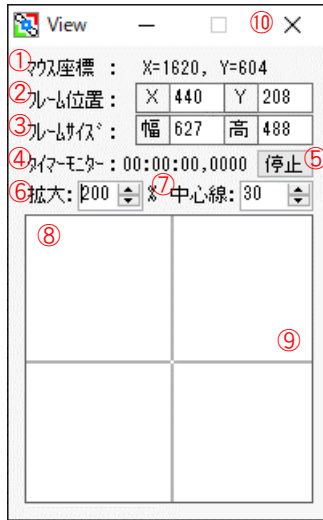
2.3 起動と終了

- ・起動方法 : 本ソフトウェアの実行ファイルをダブルクリックします。
- ・終了方法 : メインビューの「終了ボタン」を押下します。

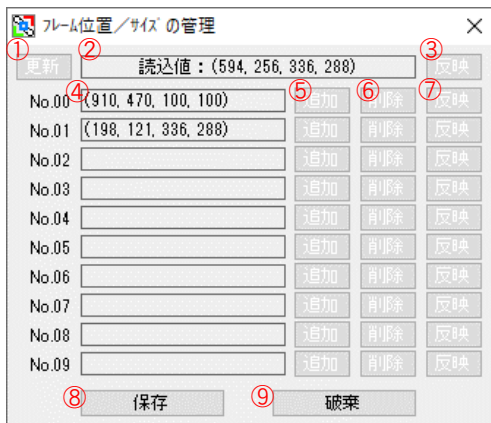
3. 機能説明

3.1 メインビュー

メインビューの各項目と内容について説明します。







項目	内容
①マウス座標	マウスポインターの座標を表示します。
②フレーム位置	フレーム内側の左上座標を表示します。
③フレームサイズ	フレーム内側のサイズ(キャプチャ画像サイズ)を表示します。
④タイマーモニター	タイマーの残時間と残回数を表示します。
⑤タイマー停止ボタン	タイマー動作を停止します(残り1回の場合は表示しません)。
⑥拡大(率)	拡大鏡の拡大率を設定します。設定値は、200, 300, 400, 500%です。
⑦中心線	「中心線の色の濃さ」を設定します。設定範囲は-100~100, 10刻みで変更できます。-100:白, 0:透明, 100:黒, その他は中間色となります。
⑧拡大鏡	マウスポインター付近を拡大表示します。
⑨中心線	線が交差する点が、マウスポインターの位置となります。
⑩終了ボタン	押下すると、本ソフトウェアが終了します。



項目	内容
①	②を現在のフレームの状態に更新します
②	本画面表示時の情報を表示します(①により変更可能)
③	②の情報をフレームに反映させます
④	記録された位置/サイズ情報を表示します
⑤	現在のフレーム情報を④に追加(修正)します
⑥	④の情報を削除します
⑦	④の情報をフレームに反映させます
⑧	④の情報を保存して画面を閉じます
⑨	変更した情報を保存せずに(元のまま)画面を閉じます

3.2 フレーム

フレームは、以下に示す3種類の切換えが可能、フレーム幅は4ピクセル固定です(以下はデフォルト色で表示)。

フレーム種類	特徴	メニュー表示方法	
移動フレーム 	フレームの内側で、マウス(左)を押しながら移動させると、フレームが移動します。また、マウス(中)を押すと残像表示の ON/OFF を行えます。	フレームの内側およびフレーム上でマウス(右)クリックします。	
透過フレーム 	フレーム内側での操作が背面に透過します	背景シート OFF 時	背景シート ON 時
		フレーム上でマウス(右)クリックします。	
		 フレーム内側でマウス移動を停止します。※1	
自動フレーム 	マウスポインターが重なった場所が持つ位置／サイズ情報をフレームに自動設定します。	フレーム内側でマウス移動を停止します。※2	

※1 マウスがメニューの上にある場合は、メニューの再表示は行われません。

※2 マウスがメニューの上にある場合とメニューが open モードの場合は、メニューの再表示は行われません。

フレーム種類の切り替えは、メニュー内の「フレーム切り替えボタン」で行います。



メニュー(close モード)

3.3 メニュー

メニューは、表示を必要最小限にした「close モード」(前ページを参照)と、すべての項目が表示される「open モード」(下図)があります。以下、各機能について説明します。



メニュー(open モード)

①キャプチャボタン

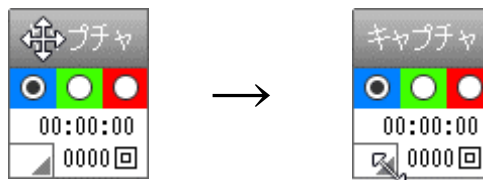
【メニュー移動】

キャプチャボタン上でマウスドラッグ(マウス(左))を押しながら移動)させると、メニューの移動ができます。移動可能時は、下図のようにマウスポインターが十字矢印となります。

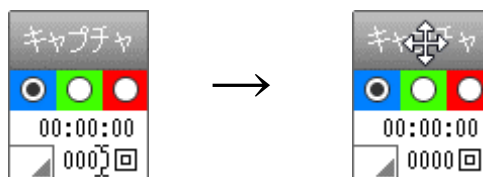


キャプチャボタン上でマウスホイールを上側に回転させると、下図(右)のようにメニューの位置が移動します。移動先でのマウスポインター位置では、マウスクリックにより、メニューの open/close 操作が行えます。

ホイール上回転



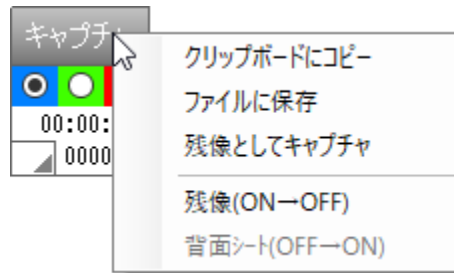
「キャプチャボタン」以外のメニュー上でマウスホイールを下側に回転させると、キャプチャボタンの中央にマウスポインターが来るようにメニューの位置が移動します。



ホイール下回転

【キャプチャメニュー】

キャプチャボタン上でマウス(右)クリックすると、下図のようなキャプチャメニューが表示されます。



キャプチャメニューの項目の各機能を示します。

項目	説明	
クリップボードにコピー※	キャプチャ画像をクリップボードにコピーします	
ファイルに保存	「⑤ファイル保存設定」に従ってキャプチャ画像をファイルに保存します。	
残像としてキャプチャ※	「⑨残像設定」に従ってキャプチャ画像を残像データとして取得します。	
残像(OFF→ON), (残像(ON→OFF))	フレーム内の残像オプションを有効(無効)にします。 「残像(OFF→ON)」と表示 : 残像表示無効 「残像(ON→OFF)」と表示 : 残像表示有効	残像と背景シートは、 排他選択となります。
背景シート(OFF→ON), (背景シート(ON→OFF))	フレーム内の背景シートオプションを有効(無効)にします。 「背景シート(OFF→ON)」と表示 : 背景シート無効 「背景シート(ON→OFF)」と表示 : 背景シート有効	

※「クリップボードにコピー」「残像としてキャプチャ」時、「⑤ファイル保存設定」は無視されます

【残像の ON/OFF】

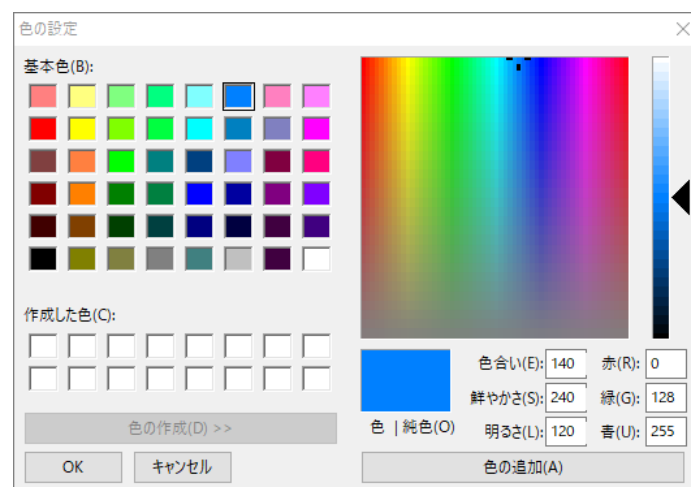
キャプチャボタン上でマウス(中)クリックすると、残像表示の ON/OFF の切り替えができます。

②フレーム切り替えボタン

マウス(左)クリックにより、フレーム種類の切り替えを行います。ボタンは左から順に「移動フレーム」「透過フレーム」「自動フレーム」への切り替えボタンとなります。



また、マウス(右)クリックすると、「色の設定」ダイアログが表示され、フレーム色の選択ができます。



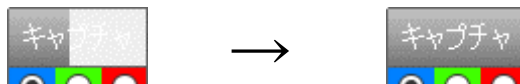
③タイマー

キャプチャ実行までのインターバル時間とキャプチャ回数を設定します。インターバル時間は 00:00:00～99:59:59 を 1 秒単位で、キャプチャ回数は 0～9999 回まで指定可能です。

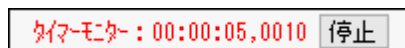
インターバル時間を 00:00:00 に設定した場合は、キャプチャ回数の設定値に関係なくキャプチャタイマースタート直後に 1 回だけキャプチャします(インターバル時間 0 秒を複数回実行するのは無意味という考えです)。

また、「キャプチャ回数を 0 回」に設定した場合は、インターバル時間経過後に 1 回だけキャプチャします(キャプチャタイマースタート直後にはキャプチャされません)。

タイマー動作中は、下図のようにキャプチャボタンがカウントダウンのアニメーション表示となります。この時に、キャプチャボタンをマウス(左)クリックすると表示されるメッセージで「OK」を選択するとタイマー動作を停止します。

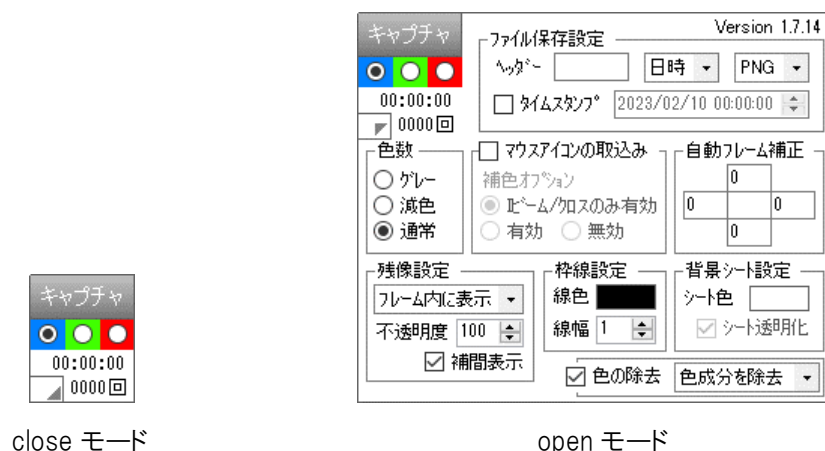


また、メインビューのタイマーモニターにタイマー残時間とタイマー残回数が表示されます。停止ボタンを押下するとタイマー動作を停止します。但し、タイマー残回数が残り 1 回分の場合は、停止ボタンは表示されません。



④メニューモード切り替えボタン

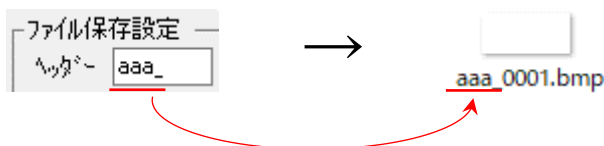
マウスクリック(左右どちらでも)により、「close モード」「open モード」の切り替えができます。また、メニュー内でマウスポインターが十字矢印となる位置でも、マウス(右)クリックによってメニューモードの切り替えが可能です。



⑤ファイル保存設定

【ヘッダー】

保存ファイル名の先頭に付加する文字を設定します。有効文字数は半角 32 文字までとなります。



【ファイル名の種類】

- ・日時：ファイル名を日時から作成し、付与します。[年月日-時分秒.拡張子]となります。
- ・番号：ファイル名を連番で付与します。連番は、同じ「ヘッダー」の場合、0001～9999 の範囲で有効となり、9999 以降の場合はエラーメッセージが表示されます。

【保存形式】

保存画像のファイル形式を BMP, JPG, PNG の中から選択します。

【タイムスタンプ】

チェックすると、ファイル保存時のタイムスタンプが右側に表示されている日時となります。

☒ タイムスタンプ 2021/11/27 00:00:00 → aaa_0002.bmp 2021/11/27 0:00

⑥色数



キャプチャ画像の色数を以下の 4 種類から選択します。

項目	説明
グレー	グレー色に変換してキャプチャします。 (24bit カラーでキャプチャ後、グレー変換します。データ形式は 24bit のままです。)
減色	16bit カラーでキャプチャします
通常	24bit カラーでキャプチャします

⑦マウス ポインター／カーソル アイコンの取込み

チェックすると、キャプチャ画像にマウスポインター／カーソルアイコンを追加できます。また、マウスアイコンの補色オプションを以下の中から選択できます。

【Iビームとクロスのみ有効】

マウスカーソルアイコンが「Iビーム」と「クロス」の場合は、アイコンを補色処理し、Windows での表示を再現します。下図は、「お」と「Iビーム」アイコンの重なる部分に補色処理が入っている例を示しています。

↓
//あいうえお↓
↓

【有効】

マウス ポインター／カーソル アイコンを強制的に補色処理します。サードパーティー製のアプリケーションが独自のマウスアイコンを使用している場合、補色処理しているかどうかまで判別できないため、手動で有効にする機能を設けています。下図は、Windows の Hand アイコンに強制的に補色処理をさせている例を示します。背景が白のため、Hand アイコンが真っ黒になってしまっています。



【無効】

マウス ポインター／カーソル アイコンの補色処理を無効にします。下図は、「お」と「Iビーム」アイコンの重なる部分が、Windows での表示とは異なり、Iビームが黒のままになっている例を示しています。

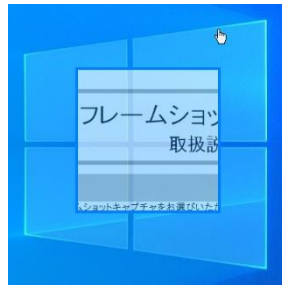
↓
//あいうえお↓
↓

⑧自動フレーム補正

自動フレームでのフレームの位置／サイズの自動調整時に、入力された値が補正されます。入力可能な補正值は、-100～100 ピクセルとなります。

⑨残像設定

残像を表示する位置、および不透明度を設定します。下図に、残像表示を行った例を示します。



移動フレーム内に残像を表示している様子

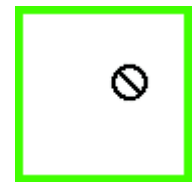
【残像設定】

- ・フレーム内に表示
- ・不透明度：60%

残像は、キャプチャメニューから「残像としてキャプチャ」を実行した場合の他に、移動フレーム内に BMP, JPG, PNG のいずれかの画像ファイルをドラッグ&ドロップした場合でも、残像データとして表示されます。このとき、フレームサイズは画像ファイルのサイズ情報に変更されます。

注意事項：

ドラッグ&ドロップに対応するフレームは移動フレームのみとなります。もし、透過フレーム内に画像データをドラッグ&ドロップした場合は、下図のように表示され、残像データとして表示されません。一方、自動フレームの場合は、自動フレームの後ろにドラッグ&ドロップされてしまうので、注意してください。

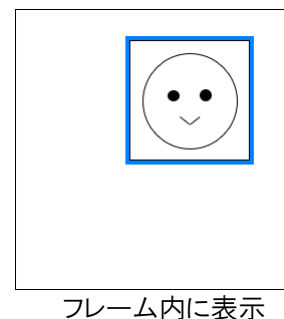
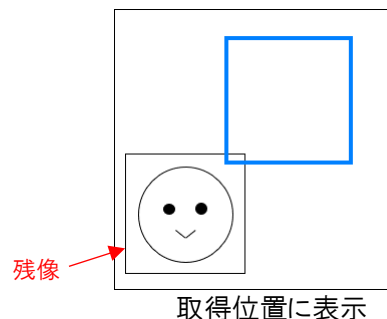


【取得位置表示】

残像が「残像としてキャプチャ」または「ドラッグ&ドロップ」した位置に表示されます。フレームを移動しても残像表示位置は移動しません(下図(左)参照)。また、Shift キーを押しながらフレームを移動させると、残像の取得位置を移動させることができます。

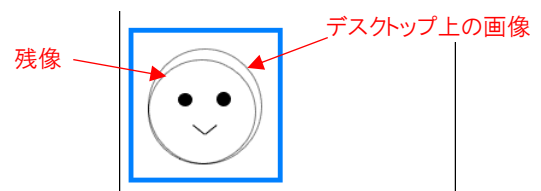
【フレーム内に表示】

残像をフレーム内の左上を基準に表示します(下図(右)参照)。



【不透明度】

下図は、「デスクトップ上の画像」の上に「残像」を半透明表示させた様子を示しています。このように表示させると、2つの画像の異なる部分がずれて表示されます。不透明度は 10～100 まで 10% 間隔で設定できます。数字が小さいほど表示が薄く、100% で不透明表示となります。



【補間表示】

チェックを入れると残像が補間表示され、チェックを外すと補間無しの表示となります。

残像の移動／回転／拡大縮小

残像画像上で以下の操作が可能です

【Control キー押下＋マウス(左)押下＋マウス移動】

残像の移動

【Control キー押下＋マウス(右)押下＋マウス移動】

残像の回転

【Control キー押下＋マウスホイール】

残像の拡大縮小

【マウス(左)ダブルクリック】

残像の位置／角度／拡大縮小率の初期化

⑩ 枠線設定

「線色」「線幅」の設定に従いフレーム内に枠線が表示され、キャプチャ時に枠線が追加されます。

【線色】

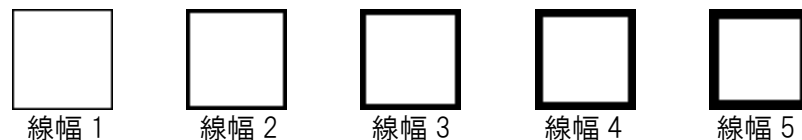
枠線の色を表示します。また、色ボックスをマウス(左)クリックすると、「色の設定」ダイアログが表示され、色の選択ができます。

「移動フレーム」のみの機能として、色ボックスをマウス(右)クリックすると、下図のようなスポイトモニタが表示されます。これはフレーム内のマウスポインター座標の色を表示するものです。さらに、スポイトモニタが表示されているときにフレーム内をクリックすると、クリックした点の色が枠線の線色として設定され、「閉じるボタン」の押下または「色ボックス」のマウス(右)クリックにより、枠線に反映されます。



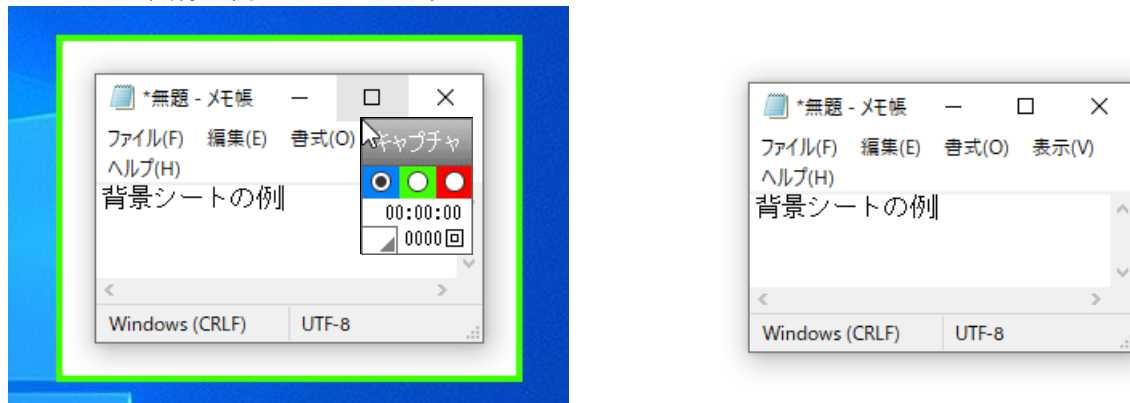
【線幅】

下図に線幅の例を示します。選択可能な線幅は 0～5 ポイントです。なお、0 の場合は枠線が表示されません。



⑪ 背景シート

フレーム内でマウスが指しているウィンドウ／コントロールの背面に「背景シート」を挿入することで、背景を塗潰します。下図(左)には、メモ帳の背面に背景シートが挿入されている様子を、下図(右)には、背景シートオプションでキャプチャした画像の例を示しています。



【シート色】

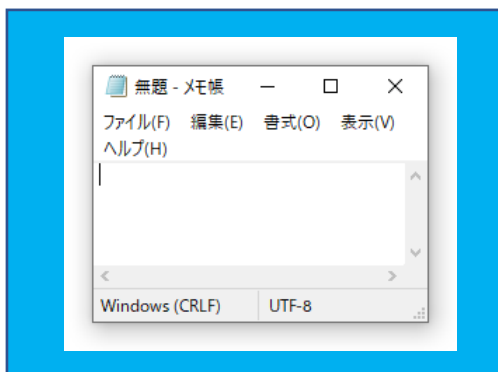
背景シートの色を表示しています。色ボックスをマウス(左)クリックすると、「色の設定」ダイアログが表示され、色の選択ができます。



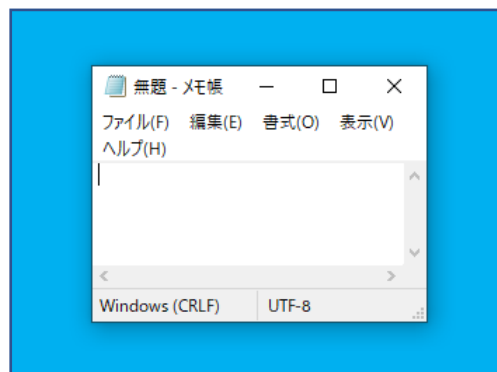
また、枠線設定の色ボックスと同様に、マウス(右)クリックにてスポイトモニタが表示され、「移動フレーム」内でクリックした色が背景シート色として選択され、「閉じるボタン」押下または「色ボックス」のマウス(右)クリックにて決定されます。

【シート透明化】

「保存形式が PNG」「透過フレーム」「背景シート ON」時のみ「シート透明化」の選択が可能となります。チェックを入れると、背景シートを透明化し、アルファチャンネル付きの 32bit カラーでキャプチャします。



シート透明化 OFF
(背景シート(白色)が見える)



シート透明化 ON
(背景シートが透明になっている)

⑫色の除去

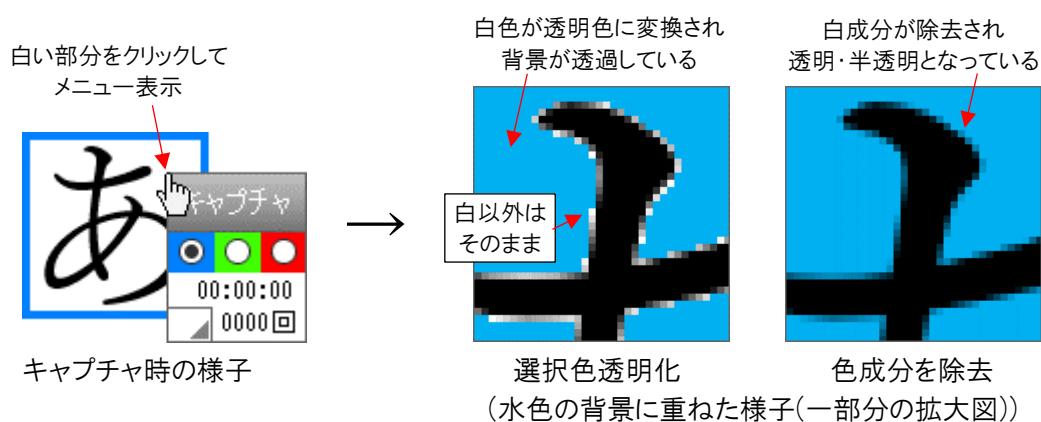
「保存形式が PNG」「色数が通常」時のみ「色の除去」の選択が可能となります。チェックを入れると、「キャプチャ時にメニュー表示する際にクリックしたポジション」の色データを使用して色の除去処理を行います。

【選択色透明化】

クリックしたポジションと同色を透明化します(下図参照)。

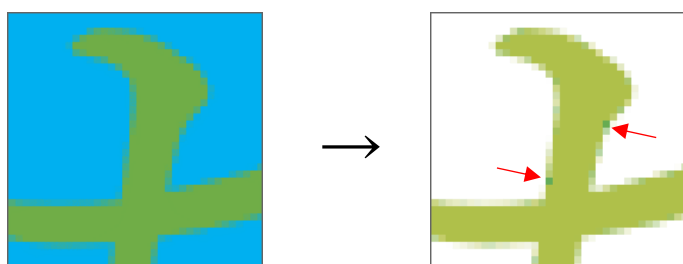
【色成分を除去】

クリックしたポジションの色成分をキャプチャ画像全体から除去します(下図参照)。



注意: 既知／調査中の不具合(本機能を使用する際は、特にキャプチャ結果に注意してください。)

「色成分を除去」の計算結果に不具合が起きる場合があります(下図(右)の赤矢印部分)。



計算は正常に完了しているのですが、期待する結果が得られていません(本当に計算に失敗すると透明となります)

以上